

◎ 評価対象分野・施策の方針

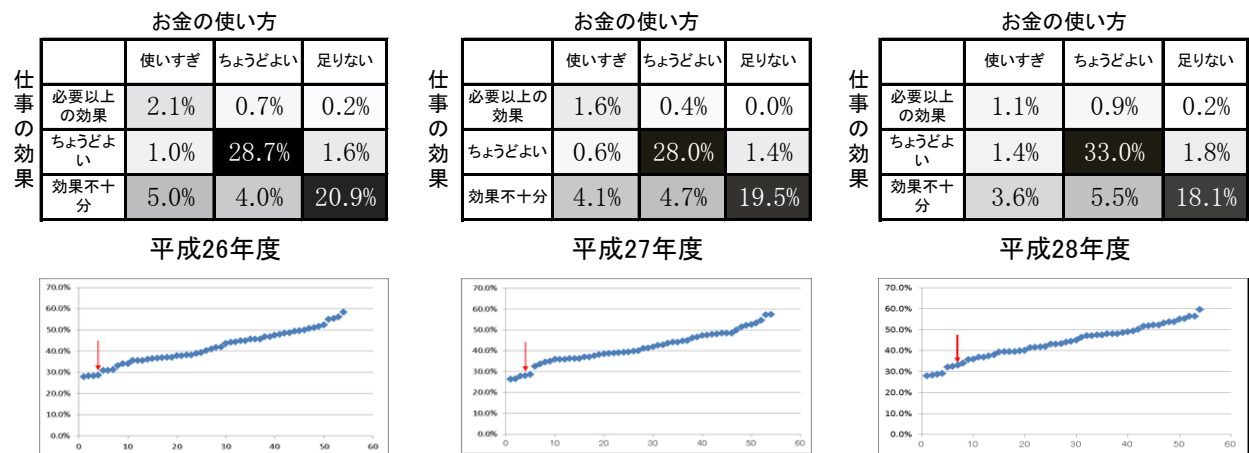
総合計画上の位置付け	分野	生活環境	施策の方針	次代に向けたエネルギー・環境対策の推進
------------	----	------	-------	---------------------

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	30.3%	平成27年度	33.6%	平成28年度	29.1%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

<妥当性の分析>

平成28年度の結果として、当該施策の認知度が平成27年度と比べ4.5ポイント上昇したものの、3割弱の方から認知されていない。また、仕事の効果、お金の使い方ともにちょうどよいの数値が33%ともっとも高くなっているが、仕事の効果が「効果不十分」、かつ、お金の使い方が「足りない」が18.1%となっており、効果を感じとれていない市民も比較的多いことがわかる。

経年の変化として、平成26年度から28年度にかけて、仕事の効果が「効果不十分」、かつ、お金の使い方が「足りない」と回答した割合が減ってきている。

今後の事業推進にあたっては、温暖化対策や省エネについての効果を分かりやすくPRする等、温暖化対策等への理解が深まるような取組を行って行きたい。

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成28年度	27.9%	33.0%	4.6%	34.5%	100.0%
平成27年度	28.8%	26.5%	5.4%	39.3%	100.0%
平成26年度	28.5%	27.5%	9.0%	34.9%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成28年度の目標

- ①平成28年3月に改定した「鎌倉市環境基本計画」及び「鎌倉市地球温暖化対策地域実行計画」、「鎌倉市環境教育行動計画」をより実効性のあるものにするため、実施状況を評価し、施策の推進に反映できるような進行管理についての検討を行う。(環境-02)
- ②「鎌倉市省エネルギーの推進及び再生可能エネルギー導入の促進に関する条例」には、「少なくとも3年ごとに基本計画を検討し、必要に応じて見直すものとします」と規定されているため、平成28年度に「鎌倉市エネルギー基本計画」及び「鎌倉市エネルギー実施計画」の検討・見直しを行う。(環境-03)

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
整理番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	事業内容	予算規模
環境-02	環境基本計画推進事業	6,417	5,506	25,463	22,874	2.5	2.3	d	B
環境-03	エネルギー計画推進事業	2,608	2,433	17,845	19,801	2.0	2.3	d	B

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】	
①平成28年3月に改定した鎌倉市環境基本計画等は、平成29年度に環境白書として実施状況の評価を行う。この環境白書のフォーマット作りなど、進行管理を行うための準備を行った。(環境-02)	
②「鎌倉市エネルギー基本計画」及び「鎌倉市エネルギー実施計画」について、鎌倉市環境審議会や鎌倉市エネルギー施策推進委員会で意見や指導を受けるとともに、パブリックコメントを行い、その意見を踏まえて、両計画の見直しを行った。(環境-03)	
【実施できなかった事業とその理由等】	

(4) 平成28年度の実施の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善
<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>			
「鎌倉市エネルギー基本計画」及び「鎌倉市エネルギー実施計画」の見直しを行うにあたり、効率化の観点から一つの冊子にまとめるとともに、エネルギー政策は地球温暖化対策と深い関係性を持っていることから平成27年度に策定した「鎌倉市地球温暖化対策地域実行計画」と整合を図った。			

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

平成28年度の市民意識調査結果では、当該施策の認知度が平成27年度と比べ4.5ポイント上昇したものの、3割弱の方から認知されていないため、市民周知方法の工夫を引き続き行う必要がある。今後、持続可能な循環型社会システムの構築を目指し、「鎌倉市環境基本計画」、「鎌倉市地球温暖化対策地域実行計画」、「鎌倉市エネルギー基本計画」、「鎌倉市エネルギー実行計画」及び「鎌倉市環境教育行動計画」の着実な推進を行う。

4 平成29年度の目標

①平成28年5月に閣議決定された「地球温暖化対策計画」において、地方公共団体の公共施設を含む「業務その他部門」については、2030年度の温室効果ガス削減目標を、2013年度比で約40%減と設定していることから、市施設の新設、改修の際には、省エネルギー機器や再生可能エネルギー設備等の導入を図れるよう関連課と調整を行っていく。
②鎌倉市の地域特性に適した、エネルギーの地産地消について研究する。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	環境-02	事業名	環境基本計画推進事業							
指標の内容及	市役所における紙類・文書類調達に対するグリーン適合品調達率						単位	%	指標の傾向	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
本市環境マネジメントにおいて、職員がグリーン適合品を意識することは重要であるため	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
	実績値	94.4	94.3							
	達成率	94.4%	94.3%							
整理番号	環境-03	事業名	エネルギー計画推進事業							
指標の内容及	市内の年間電力消費量の削減						単位	%	指標の傾向	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
鎌倉市エネルギー基本計画において省エネルギーの推進を図る目安としているため 基準年度は平成22(2010)年度	目標値	-9.3	-9.4	-9.5	-9.6	-9.7	-9.9			
	実績値	-13.5	-16.9							
	達成率	145.2%	179.8%							

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

- ・省エネルギーに対して市民は努力しているが、再生可能エネルギーに対しては認識度はまだ低い。
- ・「エネルギー施策実施状況報告書」を作成し、進行管理を行うとともに、その効果の検証を進め、施策の展開へとつなげる仕組みの構築が求められる。
- ・エネルギー対策は施設の整備とともに、利用者側(市民や来訪者)への意識の向上も大事だと考えるが、それらへの取組内容については現時点では読み取ることができない。
- ・平成27年度実施予定だった笛田公園管理事務所への再生可能エネルギー設備等の設置についての今後の方向性の検討などが求められる。
- ・どの様な計画に基づき、どの様な取組を行った結果、どの様な効果があったのかが分からない。
- ・指標として「市内の年間電力消費量に対する再生可能エネルギー等による発電量の割合」を設定しているが、市民や事業者が再生可能エネルギー設備を導入しない限り、この数値は変わらない。



指摘への対応、コメント等

- 太陽光発電設備など再生可能エネルギー等に関する補助を実施しており、チラシやHPなどで周知を行っている。
- 「エネルギー施策実施状況報告書」作成し、進行管理を行っているので、成果の出ている施策については、他の施策でも展開できるよう努めていく。
- エネルギー施策の展開に向けて、「地域エネルギー検討会」を開催し多くの関係者との対話、意見・情報交換を行ない、地域における各主体の考えや取組等を把握し、鎌倉市の地域特性に適した、エネルギーのあり方を研究する。
- 平成28年5月閣議決定の「地球温暖化対策計画」において、地方公共団体の公共施設を含む「業務その他部門」では、2030年度の温室効果ガス削減目標を、2013年度比で約40%減と設定していることから、市施設の新設、改修の際には、省エネルギー機器や再生可能エネルギー設備等の導入が図れるよう関連課と調整を行っていく。
- 計画に基づき行った取組について報告書を作成している。その中で効果が記載できるものについては記載をしていく。
- 住宅用の太陽光発電設備については導入を促進するため補助金を設けている。
- 事業者へは開発の際に太陽光発電設備の導入を呼びかけている。

提言

- ・市民への省エネルギーに向けた啓発等が重要と考えられることから、節電という視点からのアプローチ、小中学校における環境教育の充実を図られたい。また、それらに合わせた目標指標の設定と進行管理を行っていただきたい。
- ・市民力、地域力を発揮した取組を進展させる意味でも重要となってくるのは、環境教育の推進ではないだろうか。そのためにも学校教育という中に、環境をテーマとした授業カリキュラムが組み込まれるようにすべきである。
- ・3種の計画は計画書を1冊子にするだけでなく、「環境に関する総合計画」として統合することも検討すべきである。
- ・市民は何故「もっと力を入れるべき」と考えているのか、具体的理由を調査すべきである。
- ・再生可能エネルギー等による発電量の割合向上に向け、行政はどの様な働きかけを行うのかを明確にし、それが確認できる指標を設定すべきである。



提言に関するコメント等(総論)

- 取組を認知していない方が多いことから、ライフステージに応じた啓発等を今後拡大していく必要がある。また、小中学校ごとに環境保全に関する学習・活動を行っているが、より充実していくよう取り組んでいく。
- 再生可能エネルギー等による発電量の割合向上への働きかけとして、太陽光発電設備等の設置に対し、補助を実施している。平成29年度はネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)に対し、補助金額を加算するなど補助対象を拡充した。今後も再生可能エネルギー等設備の導入を促進するための研究・検討に取り組んでまいりたい。
- 平成29年度に実施予定である地域エネルギー検討会にて、関係者との対話、意見・情報交換を行い、市民、事業者の考えや取組等の把握をするよう予定している。
- 再生可能エネルギー等による発電量については、鎌倉市エネルギー基本計画の中で目標として定めているが、平成28年度から実施された電力自由化により発電量の把握が困難となっていることからそれに対しての検討を行っているところである。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・鎌倉市内の省エネに対する意識、取組が高い水準をキープしている。
- ・「鎌倉市エネルギー実施計画」に基づく市のエネルギー施策の進捗状況を把握・検証した。
- ・「鎌倉市環境基本計画」、「鎌倉市地球温暖化対策地域推進計画」、「鎌倉市環境教育推進計画」の3つの計画は、互いに関連が強いことから、改定にあたり、効率化の観点から一つの冊子にまとめた。
- ・環境エネルギー条例などの新たな地域でのエネルギーに関する構想を検討している。
- ・「鎌倉市エネルギー基本計画」及び「鎌倉市エネルギー実施計画」について、両計画の見直しを行った。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↑	1	↓	1	→		→
効果	○	0	△	0	—		—

《課題》

- ・再生可能エネルギーに関する市民への働きかけが足りない印象がある。
- ・「年間電力消費量」は順調に目標を達成しているように見えるが、その要因分析が全く無い。あらゆる領域で順調なのか、把握すべきである。
- ・計画書倒れに陥りやすい施策である。
- ・平成29年度はネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)に対し、補助金額を加算するなど補助対象を拡充したとあるが、実績を明記すべきである。
- ・住宅用の太陽光発電設備については導入を促進するため補助金を設けているが、実績はどのようなものかなどデータの提示を明記すべきである。
- ・平成28年度は、計画に留まっている印象。次年度の目標にある「市施設の新設、改修の際には、省エネ機器や再生可能エネルギー設備等の導入が図れるよう関連課と調整を行っていく」という点に期待する。
- ・市民の認知度を上げるには具体的な取組が必要である。計画を策定しても目に見える形で実施しなければ意味が無い。
- ・一昨年度の評価委員からの「環境教育の推進とあるが市民、事業者、観光客、行政が個々にわかりやすい内容の普及・啓発を行ってほしい」という指摘に対し「鎌倉市環境教育行動計画」に基づき、環境教育を分かりやすい内容で、個々に普及・啓発していきたいと考えている。」と回答しているが、これらに関する取組が見られない。

《提言》

- ・平成25年に行われたワールドカフェ形式のワークショップに参加した市民の環境意識は高いと想像ができる。こういった意識の高い参加者の知恵を行政は上手に活用できなものの。また意識の高い市民のネットワークを使った取組が行われても良いのではないだろうか。
- ・平成28年度実施内容等を見ると事業名称が「計画推進事業」ではなく「計画立案事業」に見えてしまう。昨年の評価委員会の指摘にもあるように、具体的な推進事項を報告されたい。
- ・「エネルギー基本計画は条例で少なくとも3年毎に必要なに応じて見直す」とあるが、今回見直した必要性には全く触れていない。また、3年毎の見直しが必要なければ条例改正を検討したい。
- ・「再生エネルギーなどによる発電量の把握が困難」とあるが、至急解決願いたい。基本計画で目標設定している意義が問われてしまう。
- ・イベント等で発砲スチロール等の石油系ゴミが多く出ている。出来るだけなくすよう徹底する。まず、市の施設を使って行うイベントはリユース食器を利用することを義務づける。又、マイはし、マイ食器の持参を呼びかける。
- ・「エネルギー施策実施状況報告書」を作成し、進行管理を行うとともに、その効果の検証を進め、施策の展開へとつなげる仕組みの構築は重要である。
- ・平成27年度実施予定だった笛田公園管理事務所への再生可能エネルギー設備等の設置についての今後の方向性の検討などが必要である。
- ・「再生可能エネルギー」に関する市民への周知が必要である。
- ・具体的に身近なところから実践していくこと。鎌倉は山あり海あり、子どもたちには興味を引く題材がある。環境教育は進めやすい。
- ・公共施設の省エネ手法の取り入れも重要だが、市民生活の中で容易に実行できる省エネ生活を提案し浸透させる事業があっても良いのではないか。生活費の削減にもつながり、知れば実行する人も多いのではないか。
- ・使用量の削減も重要だが、「目標とすべきまちの姿」に掲げる「再生可能エネルギーへの代替えを推進」についても検討すべきである。
- ・「計画の改訂」「規則の改定」等については、改定の「理由」「背景」ならびに主な改定事項についても記載すべきである。
- ・指標としている「市内の年間電力消費量の削減」について、「目標とすべきまちの姿」からすれば、削減ではなく、何をもちえて代替したかであるため、削減の原因を把握すべきである。
- ・環境教育については、近隣の環境学部を持つ大学などとの協働での取組なども行うべきである。

《質問》

- ・ZEHの認知度はいかがか。